

## 利尻島におけるオジロワシ *Haliaeetus albicilla* の 2 例目の営巣記録と 近年の繁殖動向

風間健太郎<sup>1)2)3)</sup>・風間麻未<sup>2)3)</sup>・沖山 幹<sup>3)</sup>・谷島 桜<sup>4)</sup>・岡田伸也<sup>5)</sup>・佐藤雅彦<sup>6)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学人間科学学術院

<sup>2)</sup> 〒 041-8611 北海道函館市港町 3-1-1 北海道大学水産科学院

<sup>3)</sup> 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 97-2 利尻自然史研究室

<sup>4)</sup> 〒 252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866 日本大学 生物資源科学部

<sup>5)</sup> 〒 097-0401 北海道利尻郡利尻町杵形字新湊 207 株式会社トレイルワークス

<sup>6)</sup> 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

## Second Record and Recent Status of White-tailed Sea Eagle *Haliaeetus albicilla* Breeding at Rishiri Island

Kentaro KAZAMA<sup>1)2)3)</sup>, Mami T. KAZAMA<sup>2)3)</sup>, Motoki OKIYAMA<sup>3)</sup>, Sakura YAJIMA<sup>4)</sup>,  
Shinya OKADA<sup>5)</sup> and Masahiko SATO<sup>6)</sup>

<sup>1)</sup> Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama, 359-1192 Japan

<sup>2)</sup> Graduate School of Fisheries Sciences, Hokkaido University, 3-1-1 Minato-cho, Hakodate, Hokkaido, 041-8611 Japan

<sup>3)</sup> Rishiri Natural History Institute, 97-2 Senhoshi Honcho, Rishiri, Hokkaido, 097-0311 Japan

<sup>4)</sup> College of Bioresource Sciences, Nihon University, 1866 Kameino, Fujisawa, Kanagawa, 252-0880 Japan

<sup>5)</sup> Trail Works, 207 Shinminato, Kutsugata, Rishiri, Hokkaido, 097-0401 Japan

<sup>6)</sup> Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

**Abstract.** A nest of White-tailed Sea Eagle *Haliaeetus albicilla* was newly found at Rishiri Island in 2019. A pair found in 2017 continued to breed both in 2018 and 2019.

オジロワシ *Haliaeetus albicilla* は国の天然記念物、国内希少野生動植物種、および環境省レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に指定され、その保全が義務づけられている。利尻島において本種の繁殖は 2017 年に初めて確認された (風間ら, 2018)。2019 年に筆者らによって利尻島において 2 例目となる繁殖が確認されたので報告する。あわせて、2017 年に発見された繁殖巣の 2018 年以降の繁殖状況についても報告する。保護の観点から営巣地の特定を避けるため、本報告では営巣場所の詳細な記述は行わなかった。

### 1. 利尻島 2 例目のオジロワシの繁殖記録

2018 年 5 月中旬から 7 月下旬にかけて、島の北部において餌を持ち飛翔する本種成鳥が複数回観察された。同年 6 月下旬には、餌を持ち飛翔する個体を双眼鏡により追跡したところ、森林内の樹冠に留まる姿が確認されたため、付近で営巣していることが示唆された。

2019 年においても 5 月下旬から同地域で餌を持ち飛翔する本種成鳥が複数回観察された。飛翔方向は 2018 年と同様であった。著者らは利尻島内でカモメ類の学術調査を行っており、オジロワシによる



図1. 2019年6月下旬にドローンにより空撮されたオジロワシの巣と1羽のヒナ。

Fig. 1. The nest of White-tailed Sea Eagle containing chick photo by UAV on late June, 2019.

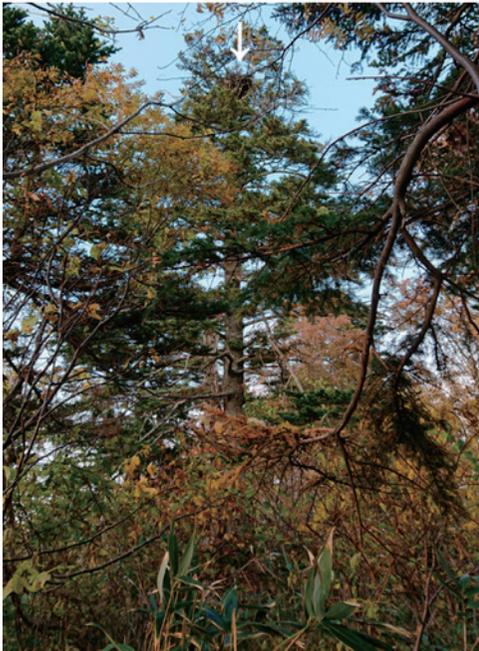


図2. 2019年10月21日に確認されたトドマツにかけられたオジロワシの巣(矢印)。

Fig. 2. The nest of White-tailed Sea Eagle (white arrow) on Todo fir photo on 21 October, 2019.

カモメ類への捕食の影響を調査するために、オジロワシが実際に営巣しているか、また営巣していた場合にはそのヒナ数を正確に把握する必要があった。そのため、風間ら(2018)に従い親鳥やヒナへの悪影響に十分配慮した上で、同年6月下旬に遠隔

操縦式小型マルチコプター(ドローン, Phantom 3 Advanced, DJI)により上空から巣の探索とヒナの確認を行った。ドローンによる調査では親鳥を飛び立たせないよう、飛行高度を終始150mに保持した。また調査は万一親鳥が飛び立ってもヒナへの影響が少ないと考えられる6月の一回に限定した。この探索により樹冠内に巣が発見され、巣内には1羽のヒナが確認された(図1)。

巣の発見後、巣から2.5km程度離れた場所に定点を設け、7月下旬まで断続的に観察を行った。この間、成鳥は巣への餌運びを継続した。望遠鏡による観察により定点から巣内ヒナを直接観察することはできなかったが、7月23日には巣上に成鳥が滞在していることが確認された。

10月21日に、巣へのオジロワシの出入りがなく、および巣の周辺に個体が滞在していないことを確認した後、巣の直下まで接近して営巣木の調査を行った。営巣木は胸高直径69.7cmのトドマツ *Abies sachalinensis* であった。巣は営巣木の樹冠部分にかけられていた(図2)。

## 2. 2017年に発見された繁殖ペアの2018年以降の繁殖動向

風間ら(2018)により2017年に利尻東南部で



図3. 2018年6月22日に確認されたオジロワシ巣上の2羽のヒナ(矢印)。

Fig. 3. Two chicks of White-tailed Sea Eagle (white arrows) on the nest observed on 22 July, 2018.



図4. 2019年6月18日に確認されたオジロワシ巣上の1羽のヒナ(矢印).

Fig. 4. A chick of White-tailed Sea Eagle (white arrow) on the nest observed on 18 June, 2019.

初確認された本種繁殖巣のその後の動向を把握するために、2018年5月上旬から7月下旬、および2019年の5月上旬から7月上旬まで断続的に同巣の観察を行った。観察は、親鳥やヒナに影響を及ぼさないように、巣から2km程度離れた場所から実施した。

2018年5月19日にヒナ1羽を確認した。6月22日にはヒナ2羽が確認され(図3)、いずれのヒナも巣上で羽ばたきをくり返していた。7月12日にはヒナ1羽が巣外を飛翔するのを確認した。この年の最後の観察となった7月22日には、巣立ったヒナ2羽が巣の付近のトドマツ樹上に滞在していた。

2019年は、5月24日に2羽のヒナを確認した。6月10日にはヒナ1羽のみが確認され、6月18日にも1羽のみが確認された(図4)。6月下旬時点で生残していたヒナは1羽のみであった可能性が高かった。1羽のヒナは7月上旬まで確認された。それ以降は観察を実施しなかったため、この年の巣立ちの確認はできなかった。

本調査により本種の新たな巣が発見され、利尻島

の巣数は2となった。日本では近年北海道を中心に本種の繁殖数が増加している(白木, 2013)。利尻島においてもさらに多くの巣が発見される可能性も否定できないため、今後も継続的な調査が必要である。

本調査では、2017年に発見された巣の繁殖がその後2年間継続したことも確認された。先述のように、本種はその希少性の高さから保全が義務づけられている。本種は風力発電建設など様々な人為的な環境改変の影響を受けやすい(白木, 2012)。今後、利尻島における2巣において本種の繁殖が継続するように、種々の開発事業において繁殖への配慮が求められる。

### 謝辞

道央鳥類研究グループ先崎啓亮氏ならびに東京農業大学白木彩子准教授には観察手法についてご助言いただいた。これらの方々には深く感謝する。本調査は、環境省環境研究総合推進費「(4-1803) 洋上風力発電所の建設から主要な海鳥繁殖地を守るセンシティブティマップの開発」および日本学術振興会科学研究費助成金(19K06083)の助成を受け実施された。

### 参考文献

- 風間健太郎・風間麻未・塚本祥太・Catherine Lee-Zuck・白木彩子・佐藤雅彦, 2018. 利尻島におけるオジロワシ *Haliaeetus albicilla* の営巣初記録. 利尻研究, (37): 101-104.
- 白木彩子, 2012. 北海道におけるオジロワシ *Haliaeetus albicilla* の風力発電用風車への衝突事故の現状. 保全生態学研究, 17: 85-96.
- 白木彩子, 2013. 北海道におけるオジロワシの繁殖の現状と保全上の課題. 桜井泰憲・大島慶一郎・大泰司紀之(編), オホーツクの生態系とその保全: 319-324. 北海道大学出版会. 札幌.